

平成30年度第2回「健康食品」による健康被害事例専門委員会からの報告

1 開催日時・場所

平成 31 年 1 月 11 日（金曜日）午前 9 時 30 分から午前 11 時 30 分まで
東京都健康安全研究センター 本館 6 階会議室

2 議事及び報告事項

(1) 議事：事例の検討について

平成 30 年 6 月 1 日から平成 30 年 11 月 30 日までの間に都医師会、都薬剤師会、都消費生活総合センターを通じて収集した 6 事例のうち※5 事例（便秘 1 例、肝障害 1 例、不正出血 1 例、皮膚症状 2 例）について検討を行った。※1 事例は医薬品成分混入のおそれとの情報であったが、医薬品成分は検出されなかったため検討課題としなかった。

5 事例の検討の結果、情報提供することとした 2 事例（便秘、肝障害）及び受診時の聞き取り調査を依頼することとなった 1 例（不正出血）について、都医師会、都薬剤師会を通じて協力を依頼した。

なお、2 事例（皮膚症状 2 例）については、事例として蓄積していくという結論になったが、元々アレルギー体質の人が健康食品と医薬品を併用した事例であったことからアレルギー体質の人や基礎疾患のある人（医薬品を服用している人）が健康食品を摂取することで相互作用により健康被害が生じることがあるため、患者の健康食品摂取状況の確認や相互作用の確認を行うよう依頼した。

今回の事例について事前に精査した結果、緊急調査等が必要な事例は無かった。（肝障害事例については都消費者センターから消費者庁に報告済）

(2) 議事：クリアファイル「健康食品はお薬ではありません」の作成について

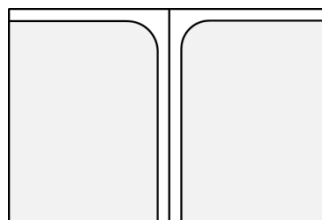
昨年度の「健康食品」による健康被害事例専門委員会が実施した 350 例の事例解析結果をふまえ、普及啓発資材を作成することとした。記載内容については健康食品対策推進連絡会でたたき台（イメージ案）を作成し、委員の皆様からの意見を踏まえた上で印刷会社にデザイン案作成を依頼、本委員会にてデザインの確認と了承を得た。

昨年度の事例解析結果のポイント	当課の対策
・使用目的では、健康の維持・増進と治療が多くみられた。治療目的の使用については、消費者の意識の改善が望まれる。	治療目的での健康食品使用について意識改善を促すことを主として啓発する。
・健康被害者の属性では、性別に関しては女性が男性に比べ多く、年齢はやや高齢者（60代、70代）に多い傾向があった	啓発のメインターゲットをシニア世代の女性とし、その他の世代にも受け入れられる啓発資材を検討する。

作成する啓発資材については、以下の点を考慮し、シニア世代に使いやすいA5サイズのダブルポケットクリアファイルとした。

- ・ A4サイズの書類より、お薬手帳やマスク等を持ち運ぶ機会が多い
- ・ 小さめのハンドバックにも入り、持ち運びやすいサイズ

A5ダブルポケットクリアファイル
イメージ（見開き）



1ページに治療目的での健康食品使用について意識改善を促す内容、見開き2, 3ページに健康食品を安全に利用するためのポイント12か条、4ページに定期購入に関する注意喚起を記載。定期購入に関する啓発は、事例解析で御指摘いただいた内容ではなかったが、消費生活総合センターにおいて相談件数が多いことから記載した。

(3) 報告：東京都医師会及び東京都薬剤師会への協力依頼について（平成30年度第1回「健康食品」による健康被害事例専門委員会終了後の資料送付）

次の事項について報告した。

- ・ 今年度第1回当専門委員会での検討結果（類似の症例を積極的に情報収集に努めるとした1事例（皮疹））について、都医師会、都薬剤師会を通じて留意すべき関連情報も含めて情報提供するとともに、類似事例への収集への協力を依頼したこと）を報告した旨。

(4) 報告：収集事例の集計結果について

平成18年7月1日から平成30年11月30日までに収集した367事例の集計結果について報告した。

ア 収集事例の内訳

医師会	165人	延べ	238製品
薬剤師会	117人	延べ	128製品
消費者センター	1人	延べ	1製品
計	283人	延べ	367製品

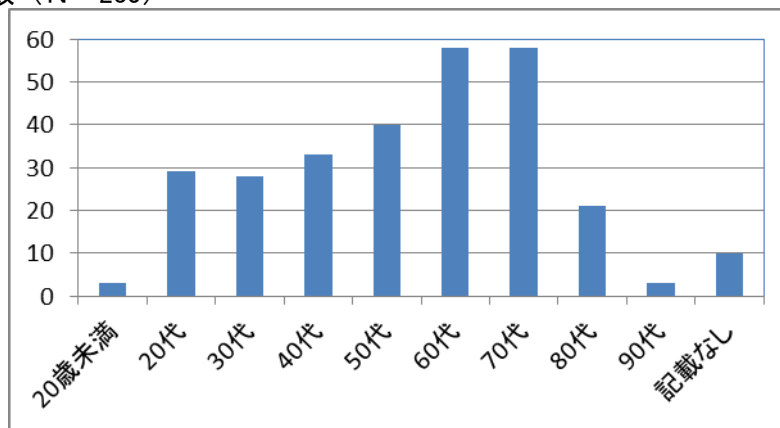
イ 年齢別人数分布

年齢	患者数	利用目的の主な内訳 (その他・不明・記載なしを除く)
20歳未満	3	健康維持・増進・栄養補給2、ダイエット1
20代	29	健康維持・増進・栄養補給3、ダイエット16、バストアップ2、美肌2、強精1
30代	28	健康維持・増進・栄養補給6、ダイエット12、美肌4、血液をさらさらに1
40代	33	健康維持・増進・栄養補給7、ダイエット10、関節痛(ひざなど)2、美肌2、強精1、ドライアイ1、

		排尿障害1
50代	40	健康維持・増進・栄養補給 18、ダイエット 5、関節痛(ひざなど)8、美肌 4、癌予防1
60代	58	健康維持・増進・栄養補給 15、ダイエット 6、関節痛(ひざなど)14、血液をさらさらに 1、美肌 1、強壮 2
70代	58	健康維持・増進・栄養補給 19、ダイエット 1、関節痛(ひざなど)18、血液をさらさらに 3、美肌 1、頻漏尿改善 1
80代	21	健康維持・増進・栄養補給 7、ダイエット 1、関節痛(ひざなど)9、血液をさらさらに1、美肌 1、味覚異常 1、血糖値改善1
90代	3	関節痛(ひざなど)1
記載なし	10	健康維持・増進・栄養補給 1、ダイエット 2
合計	283	健康維持・増進・栄養補給 74、ダイエット 51、関節痛(ひざなど)49

ダイエット・美容は20～40代、健康維持・増進・栄養補給は50代以上が多い。

人数 (N=283)



年齢別人数分布によると、50～70代が多い。

ウ 性別割合

性別割合によると、女性（209人、74%）は、男性（70人、25%）の約3倍であった。（4名は記載なし）

エ 基礎疾患の有無

基礎疾患については、有（163人、58%）、無（80人、28%）、記載なし（40人、14%）であった。

オ 症状・異常所見等

症状・異常所見等	患者数
発疹・発赤・掻痒	103
肝機能障害、肝機能検査値異常	41
胃痛・胃部不快感・吐き気	33
下痢・軟便	23
出血、出血傾向	11
頭痛・吐気	11
めまい・ふらつき	7
便秘	7
血圧上昇	7
尿酸値の上昇	4
その他	81 ¹⁾

1) 検査値異常（肝機能検査値・尿酸値を除く）、味覚異常等

※ 複数回答あり

症状・異常所見等で最も多かったものは「発疹・発赤・掻痒」の103名で、全体の36.4を占めている。次いで「肝機能障害・肝機能検査値異常」が41名（14.5%）、「胃痛・胃部不快感・吐き気」が33名（11.7%）であった。

東京都食品安全情報評価委員会
「健康食品」による健康被害事例専門委員会 委員名簿
(五十音順・敬称略)

平成 30 年 7 月現在

No.	氏 名	所属
1	○梅垣 敬三	昭和女子大学 食安全マネジメント学科 教授
2	小林 弘幸	公益社団法人東京都医師会 理事
3	千葉 剛	国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所 国立健康・栄養研究所 食品保健機能研究部 部長
4	松本 有右	公益社団法人東京都薬剤師会 常務理事
5	水谷 太郎	地方独立行政法人茨城県西部医療機構 理事長
6	山口 正雄	帝京大学医学部内科学講座 呼吸器・アレルギー学 教授
7	山口 隆司	一般財団法人食品産業センター 振興部・海外室 次長
8	山崎 壮	実践女子大学 生活科学部 食生活科学科 教授

(○) 座長